

外来種



環境省レッドリスト(2018) 準絶滅危惧(N_T)

福井県の多くの河川でアマゴの移殖・放流が行われてきた。九頭竜ダム湖産 全長:約16cm

サケ科 サケ属

【全長】20cm

アマゴ (陸封型)

学名: *Oncorhynchus masou ishikawae*

分布域

伊豆半島以西の太平洋側と四国・九州の瀬戸内海側が自然分布。

生息域

河川の中流域～上流域。一生を淡水域で過ごす。河川残留型。



稚魚はヤマメとよく似る。日野川水系産

アマゴはサツキマスと同種で、河川残留型を「アマゴ」と呼ぶ。ヤマメ・サクラマスとは近縁の亜種にあたる。体側に暗緑色のパーマークがあり、背面側には小黑点、中央部には紅色の小斑点が散在する。ヤマメとは紅色の小斑点の有無で識別する。尾鰭の上縁と下縁は鮮やかな紅色。産卵期にはオス・メスとも側線付近が黒ずむ。アマゴとヤマメは近縁種で容易に交雑する。自然分布を考慮しない放流を繰り返してきた結果、本来の福井県の在来種であるヤマメの純血種が絶滅の危機にある。本県でも2013年から、ようやくアマゴの放流が禁止されるようになった。

※アマゴはヤマメと比較し河川陸封率が高く、放流される理由となった。

移入種

陸封型

※ 水産資源としてアマゴを長期間放流してきた結果、在来種の子アゴと交雑が進みサクラマスの小型化や降海率の低下などの弊害が出ている。